一般演題4-1
当センターにおける5年間の高気圧酸素治療の中止症例について

杉嵜有里[1)]　栗原真由美[1)]　舟久保洋行[1)]
山下忠邦[1)]　村上秀崇[1)]　山下一好[1)]
丹木義和[1)]　杉原英司[1)]　鈴木紀江[1)]
畑谷重人[1)]　島津元秀[1)]　池田寿昭[2)]
池田一美[2)]

1）東京医科大学八王子医療センター臨床工学部
2）東京医科大学八王子医療センター特定集中治療部

【目的】高気圧酸素治療（以下HBO）施行中中止例と，予定回数未到達例の原因を検討した。
【方法】セクリスト社製model2500Bを使用し，2006年1月1日より2010年12月31日までの5年間にHBOを施行した390例，治療回数2838回のうち，施行中中止35例41回と予定回数未到達51例を対象とした。
【施行中中止理由】最多は耳痛出現9回で適応疾患別内訳（以下内訳）は突発性難聴5回，脳血管障害，重症の頭部外傷または開頭術による運動麻痺，骨髄炎・放射線壊死，難治性潰瘍を伴う末梢循環障害と網膜動脈閉塞症が其々1回だった。

次に尿意出現8回で内訳は突発性難聴3回，骨髄炎・放射線壊死2回，脳血管障害，重症の頭部外傷または開頭術による運動麻痺，難治性潰瘍を伴う末梢循環障害と皮膚移植が其々1回だった。（図1）

1回目の中止は9回で理由は尿意出現4回，耳痛出現3回，その他2回だった。

2回目は12回で理由は耳痛出現と血圧上昇が3回，尿意出現2回，その他4回だった。

耳痛出現は1・2回目に多く，鼓膜切開にて継続となった例もあった。

尿意出現も1・2回目に多く，身動きが取り辛いことによるストレスが考えられるが，その後継続出来た。（図2）

【予定回数未到達理由】最多は患者希望22例で内訳は突発性難聴14例，難治性潰瘍を伴う末梢循環障害4例，脳血管障害，重症の頭部外傷または開頭術による運動麻痺2例，骨髄炎・放射線壊死と急性または間歇型一酸化炭素中毒1例だった。

次に中耳炎7例で内訳は突発性難聴4例，難治性潰瘍を伴う末梢循環障害，イレウスと重症の低酸素性脳機能障害が其々1例だった。（図3）

1回目の中止は14例で理由は患者希望5例，中耳炎3例，血圧上昇と閉所恐怖症が2例，その他2例だった。

2回目は14例で理由は患者希望5例，血圧上昇3例，状態悪化2例，その他4例だった。

患者希望では1・2回目に耳痛によるストレスを訴える患者が多かった。（図4）

【考察】各々の中止理由で最多は耳痛で，その原因の一つは耳抜きが不十分であったと考えられた。

予定回数未到達例の多くは1・2回目に中止しており，特殊環境下のHBOは患者にストレスや不安を与えていると推察し，患者とより密なコミュニケーションを図りながら施行する事が重要であると考えられた。

【結語】施行中中止例と予定回数未到達例の原因の多くは耳痛だった。

患者とコミュニケーションを図りながら施行する事が重要であると考えられた。

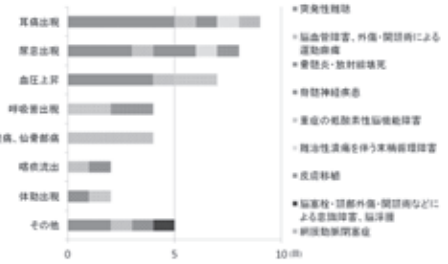

図1　施行中の中止理由

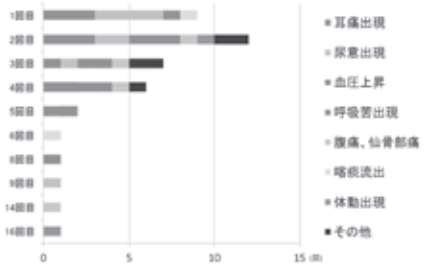

図2　施行中の中止回数

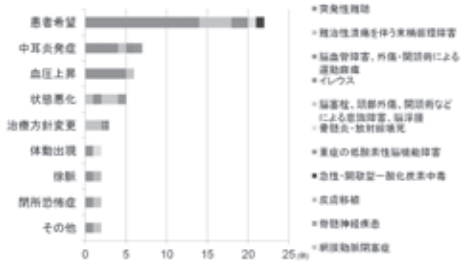

図3　予定回数未到達の理由

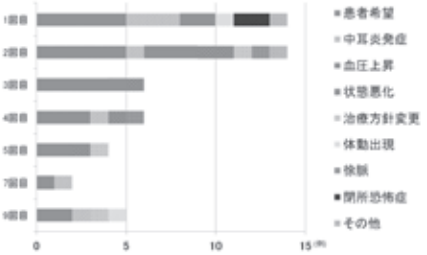

図4　予定回数未到達の中止回数

1）瀧健治：基本からよくわかる高気圧酸素治療実践マニュアル治療の原理，適応症から安全管理，トラブルシューティングまで；羊土社．2010；pp40-41．pp104-119